

セミナー通信

V o l . 330

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

文武両道を目指して

2021年、中3の冬、K君は迷っていた。どこを第一志望にするべきか、と。一番行きたい高校は菊里高校である。だが、内申も偏差値も若干足りない。チャレンジしたいが、届かなかったことを考えると思い切れない。と言うのも、菊里高校は尾張一群であるので、選べる第二志望校がないのである。いや、実際にはあるのだが、それは名東、昭和、熱田といった、春日井地区からは場所の関係上ほとんど行くことのない高校ばかりなのだ。当塾からは14年前に熱田に一人行ったきりで、名東、天白には誰一人として受験もしていない。第二志望の名東に進学することになることも視野に入れて菊里第一志望でいくか、現時点で合格可能性の極めて高い、そして勉強をしっかり指導してくれる尾張二群の旭野を第一志望にするか、迷いに迷っていた。ただ、彼の中には譲れない一つの思いがあったのである。それは、“高校の部活では思いっきりバレーボールをやりたい”というものだ。菊里のバレー部に所属して文武両道を目指したいが、名東になったとしてもそれが可能なのか……。菊里へは、バレーの強豪校であるからこそその志望だが、名東もひけをとらない強豪校である。所属するには申し分ないが、通学の難しさに加えてどの程度の練習の厳しさか、果たして春日井から通いながら頑張れるのか。

迷っているだけでは進まないで、彼は行動に出た。中学校を通して名東高校バレー部に練習参加を申し入れたのである。可能であれば数回名東に通い、実際に練習を経験してから決めようと思ったのである。コロナ禍ではあったが、名東バレー部は快く受け入れてくれた。

結果、自分の中で出たのはGOサイン。名東バレー部の練習はすばらしかった。通うこともできそうだ。「よし、菊里にチャレンジしよう！」覚悟が決まった。文武両道への道である。

今、K君は名東高校に通い、念願のバレー部に所属して充実した日々を送っている。菊里チャレンジは残念ながら当日の点数が1点足りなかったために涙を飲んだが、チャレンジしたこと一片の後悔もない。ここに来て本当に良かったと思っている。やりがいのある、とことん打ち込める部活、広い視野を持つ刺激的な仲間達—自分で動いて納得してたどり着いた場所である。

文武両道は難しい。部活でクタクタに疲れた身体で電車で揺られて家に帰り、そこから勉強に向かうのは余程の体力と根性がないとできるものではない。しかし、目指すと決めたのは彼自身である。彼のこの決意の底にあるものは、この塾で自分が3年間頑張り通したという自信だ。入塾テストではギリギリの順位だったが、“やる”と決意し、やりきった。学年一桁順位も内申40以上も掴み取った。そんな過去の頑張った自分が、今の自分を強く支えてくれている。